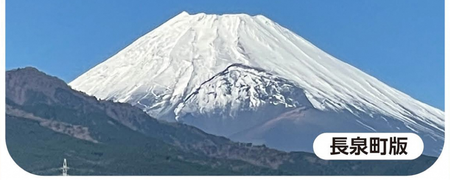
富士山 火山防災マップ

ししもの噴火に備えて

富士山の噴火の影響を確認してください



富士山は日本の象徴として親しまれており、私たちに清らかな水や素晴らしい景色を与えてくれています。しかし、富士山は活火山なので、いつ噴火するかわかりません。

このマップは、もし富士山が噴火したら、皆さんが自分の命を守るために、いつ、どこへ、どのように行動すればいいかを事前に考えていただくために作成しました。

このマップを確認して、いざというときの備えをしましょう。大切なのは、自分の命を守ることです。

防災マップに関する問い合わせ先

長泉町 地域防災課

電話番号：055-989-5505　ファックス：055-989-5656

令和６年７月作成

富士山噴火で想定される現象

もしも富士山が噴火したら、何がおこる？

噴 石（大きな噴石、小さな噴石）

噴火時に火口から放出される直径 2mm 以上の岩石の総称です。
20cm 以上の大きな噴石は火口から最大 4km の範囲、それより小さな噴石は 10km 程度まで被害をもたらすことがあります。

火砕流（火砕サージ）

火砕流は高温の火山灰や岩石と空気や水蒸気が一体となって高速で山体を流下する現象です。火砕サージは火山灰まじりの爆風で、火砕流の先端部から分離して生じる場合があります。
温度は数百度に達し、数十から百数十 km の速度で流下します。

融雪型火山泥流

積雪がある時期（積雪期）に山腹に積もった雪が火砕流等の熱で一気に溶けて水となり、火砕物や土砂を巻き込みながら高速で流下する現象です。

噴火したら、長泉町に影響は？

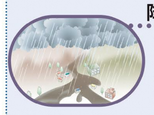
溶岩流

火口から噴出したマグマが、高温の液体のまま地表を流下する現象です。
生命への危険性は高いものの、流下速度は比較的遅く徒歩等の避難が可能ですが、地形や溶岩の状況で早く流下する場合があります。

長泉町に影響を及ぼす可能性の主な噴火現象は **溶岩流** と **降灰** です 注意が必要です！

降 灰

噴火時に火口から放出される直径 2mm 未満の細かい噴出物が火山灰です。降灰は火山灰が地表に降下する現象です。
降灰の規模は、気象条件によって大きく変化するため、予測は困難です。



降灰後土石流

火山灰などが山の斜面に堆積した後に起きる土石流のことです。
少量の降雨でも発生し、広い範囲に被害を及ぼす恐れがあり、降灰中から噴火の終息後も長期にわたって発生することがあります。

長泉町に影響の可能性がある溶岩流シミュレーション

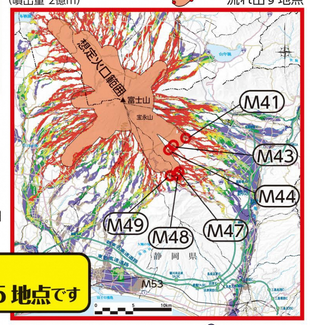
富士山の噴火する可能性のある場所は 1 か所ではありません。そのため、富士山全体で噴火する可能性がある火口・溶岩の流れ出る地点を調査し、噴火して溶岩が流れる 252 地点のシミュレーションが公表されました。
長泉町には 252 地点のうち 15 地点から溶岩が流れてくる可能性があると示されてます。
下図に 252 地点全体からの溶岩流出と長泉町へ流れ出す15地点を表しますが、一度の噴火で全ての地点から溶岩が流れるわけでありません。
一度の噴火で、252 のうちどこかの地点で溶岩が流れます。

（注）各計算開始点の溶岩流シミュレーションを重ね合わせた図で、一度の噴火でここに塗られた範囲の全てに溶岩流の危険が生じるわけではありません。
（注）シミュレーション前提と異なる火山現象が生じる可能性があることにも注意が必要です。

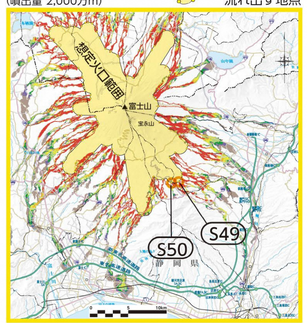
- 溶岩流が 2時間 で到達する可能性がある範囲
- 溶岩流が 3時間 で到達する可能性がある範囲
- 溶岩流が 6時間 で到達する可能性がある範囲
- 溶岩流が 12時間 で到達する可能性がある範囲
- 溶岩流が 18～24時間 で到達する可能性がある範囲
- 溶岩流が 24時間～7日間 で到達する可能性がある範囲
- 溶岩流が 最終的に 到達する可能性がある範囲

溶岩の流れ出す地点は 252 もあり、そのうち長泉町に影響があるのは 15 地点です

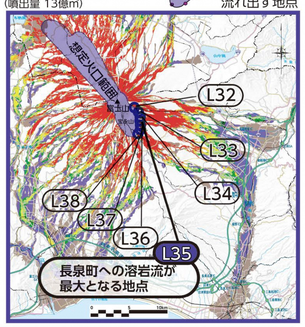
中規模溶岩流
（噴出量 2億㎥）



小規模溶岩流
（噴出量 2,000万㎥）



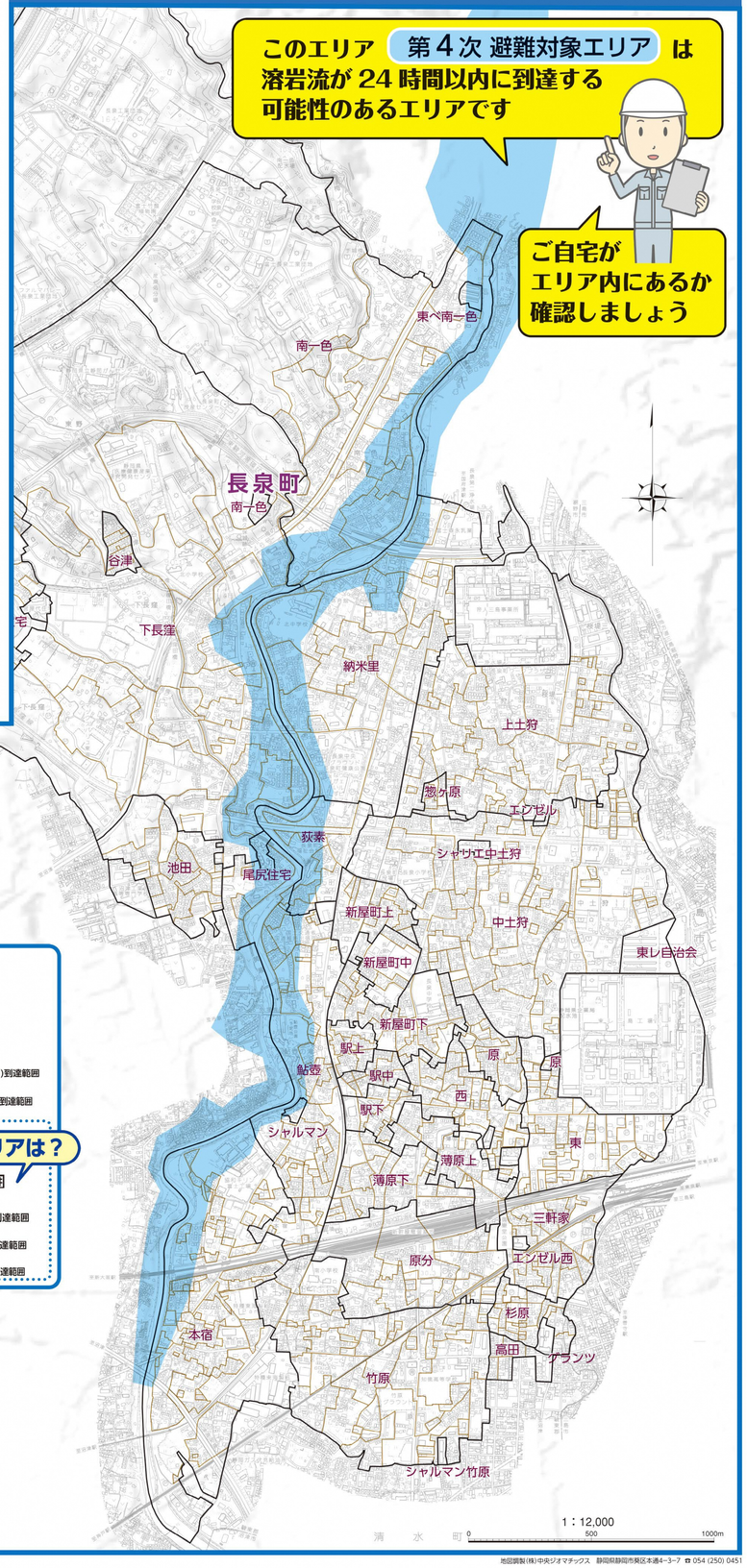
大規模溶岩流
（噴出量 13億㎥）



24時間以内に溶岩が流れる範囲のシミュレーションをまとめたものを 流下パターン として発表されています（裏面に掲載）

富士山の溶岩流の影響想定範囲（避難対象エリア）

時間とともに避難が必要な地域の拡大が想定されるため、想定される火口の位置からの距離に応じ 6 つのエリアに分割しています。



降灰の可能性範囲と降灰深

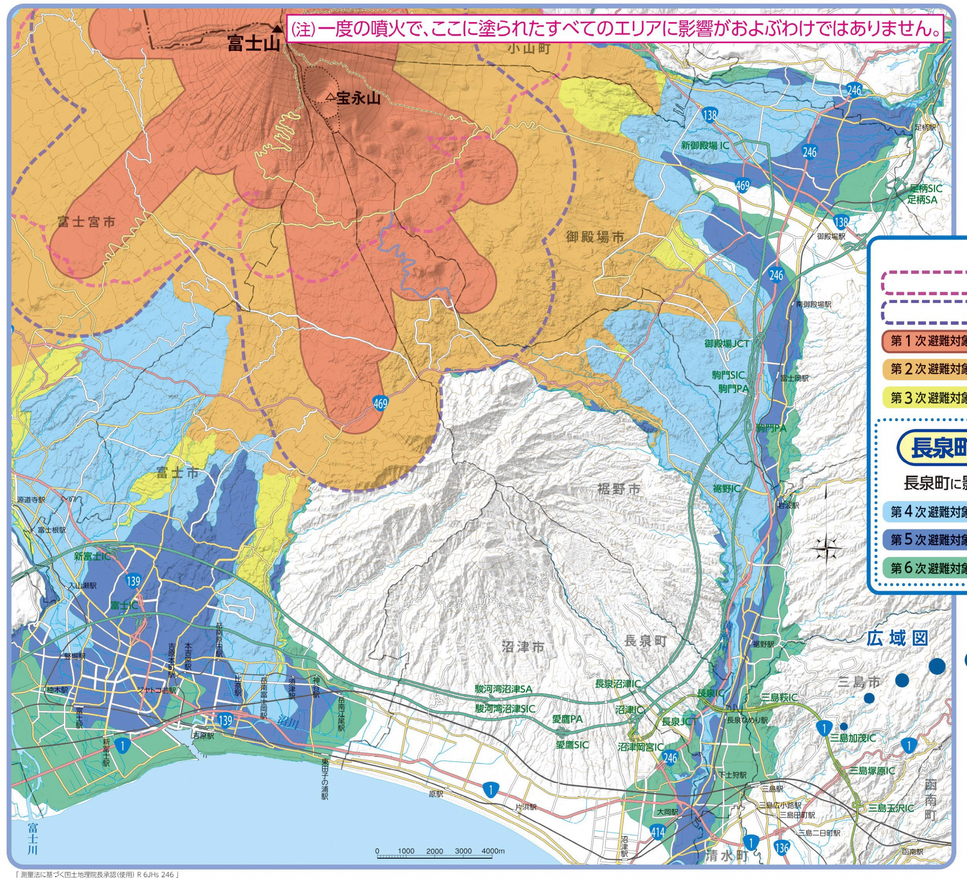
細かく砕けたマグマが空高く吹き上げられ、風に乗って遠くまで運ばれます。
火口の近くでは厚く積もり、遠くなるにしたがって徐々に薄くなります。
外出を控え、やむを得ず車の運転をする場合は注意しましょう。

火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合、広い地域に火山灰が降ります

季節によって風向が変わるため、火山灰の到達範囲は変わります。
降灰の可能性マップはすべての季節を重ねて描いているため、実際の降灰範囲は異なる場合があります。

降灰のときの注意点！

- 降灰からの避難は、火砕流や溶岩流、建物の倒壊等による命の危険がない場合、自宅や近隣の堅牢な建物内での屋内退避が原則です。
- 灰を吸わないようにするためや目を保護するために、マスクやゴーグルを着用しましょう。
- 風下の場合は火山灰だけでなく小石が降ってくることがあるので、やむを得ず外に出る時はヘルメットをかぶり頭部を保護しましょう。
- 家は窓を閉めて建物を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップしやすくなります。また、ガラスが傷つき前が見えなくなるため、火山灰が乾いているときは、ワイパーを動かしてはいけません。泥や雨のため、やむを得ずワイパーを使う場合は、ウォッシャー液をたっぷり使います。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。



「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 6JHs 246」

凡　例

- 噴　石
- 火砕流
- 第１次避難対象エリア　想定火口範囲
- 第２次避難対象エリア　溶岩流（1 時間以内）到達範囲
- 第３次避難対象エリア　溶岩流（3 時間以内）到達範囲

長泉町の避難対象エリアは？

長泉町に影響する溶岩流到達範囲

- 第４次避難対象エリア　溶岩流（3 時間 - 24 時間）到達範囲
- 第５次避難対象エリア　溶岩流（24 時間 - 7 日間）到達範囲
- 第６次避難対象エリア　溶岩流（7 日間 - 約 57 日間）到達範囲

広域図

拡大図

地図調製（株）中央ジオマチックス　静岡県静岡市葵区本通4-3-7　☎ 054 (250) 0451